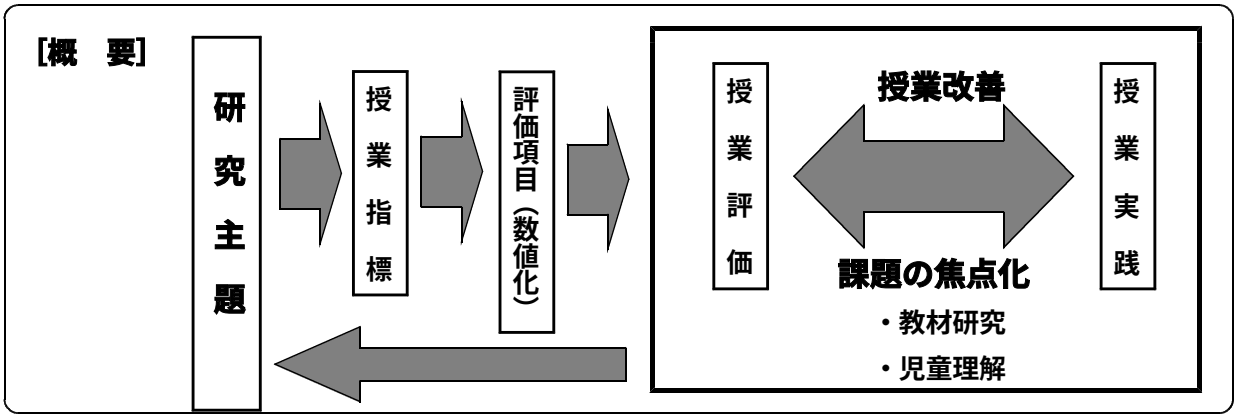
3　「児童による授業評価」から課題を焦点化し、研究主題にせまる授業を展開する



研究主題や副主題から授業指標を作成する

研修組織の中に、学習評価・授業評価部会を設け、学力分析や授業分析を行う。研究主題への効果的なアプローチとして、研究主題や副主題を授業レベルにまで具現化することを考えなければならない。具現化の方法として、学習評価・授業評価部会が中心となり授業指標を作成する。授業指標とは、研究主題を達成するために必要と考えられる授業の要件である。

例えば、学習評価・授業評価部会が作成する授業指標は、以下の通りである。

研究主題
「学び」の楽しさを実感する授業の創造
～自分のことばで語り伝える姿を求めて～

↓

授業指標（学びの楽しさを実感する授業の要件）
①見通しを持てる。
②学習内容が分かる、できる。
③学習活動が楽しい、おもしろい。
④プラス評価を受ける。
⑤学ぶ意義が感じられる。
⑥自分の言葉で表現したくなる。（語りの場）

授業指標①は、児童が学習課題を理解しているかということである。本単元もしくは、本時で何を学ぶのかを理解した上で学習に取り組んでいるかを評価させることで、課題の提示の仕方や課題の持たせ方は適切であったかを評価する。

指標②は、児童が授業で学習内容を理解できたかということである。理解の度合いを評価させることによって、発問の仕方、教材提示の方法、板書の仕方など指導法が適切であったかを評価する。

指標③は、児童が学習活動を楽しむことができたかということである。知的な楽しさを味わうことができたかを評価させることによって、意欲のもたせ方、体験的な活動の工夫、教材解釈などが適切であったかを評価する。

課題に対して話合いを深める児童

指標④は、児童が授業において他者からほめられたり、認められたりしたかということである。友だち同士による認め合いがあるか、教師が児童に対して適切な言葉がけをし、賞賛や承認の気持ちを伝えることができているかを評価する。

指標⑤は、学んだことが役に立つということを児童が実感しているかということである。学ぶ意義が感じられたかを評価させることによって、学習課題が適切であったか、成就感や達成感を味わ

える学習内容であったかを評価する。

指標⑥は、副主題に直接関わるもので、実際に研究主題を具現化しようとした授業であったかを評価する。

児童の実態を考慮し、授業指標から評価項目を作成する

指導者はこの授業指標をもとに、児童の実態や教科を考慮して、「児童による授業評価」の評価項目を作成する。児童は、自分の学習をふり返る自己評価として捉え、指導者は、自分の行った授業をふり返り、次の授業に生かすためのものとして考える。課題を焦点化させるために、各項目を４段階で評価し、数値化する。

【例１】第２学年算数「たし算とひき算のひっ算」

（指標②から）

ひっ算のやりかたが分かりましたか。

×	△	○	◎
1	2	3	4

（指標③と⑤から）

もっとひっ算のべんきょうがしたくなりましたか。

（指標⑥から）

ひっ算のしかたを友だちにせつめいしたくましたか。

【例２】第５学年国語

「身近な生活について討論しよう」

（指標①から）

今日の学習課題が分かりましたか。

（指標②から）

自分の考えを発表することができましたか。

（指標③から）

楽しく学習することができましたか。

（指標④から）

友だちや先生から、自分の考えや意見を認めてもらえましたか。

（指標⑤から）

討論の学習をすることは、これからの生活に立つと思いますか。

（指標⑥から）

自分の意見を友だちに説明したり、友だちの意見を聞いたりすることが楽しかったですか。

ブロック等で児童による授業評価を分析し、授業改善の方向性を探る

授業評価の分析結果をもとに同学年や低・中・高学年ブロックを基本に授業を検討する。授業検討は、授業者と参観者を中心に評価項目に沿って短い時間で行う。日頃から互いに授業を観あう雰囲気を作り、授業検討を習慣化するとよい。

授業検討の様子

児童の姿を通して授業を分析し、次の授業では具体的に何に取り組むべきであるかを焦点化する。各評価項目の達成度は、客観的な数値によって分かりやすく表されることから、優先順位をつけながら授業を構想していくのも一つの方法である。課題を明確にすることで、効果的に教材研究を進めていくことができる。

また、児童一人ひとりの授業評価から、その児童の学習意欲の変化や理解度などを把握することが可能になる。例えば、指標④の「プラス評価を受ける。」という項目に低い評価をしている児童がいれば、次の授業ではその児童をどこかで認めたり、賞賛したりしようと考えることができる。つまり、児童理解が深まり個に応じたきめ細かな指導の手がかりになる。

全体で共通理解を図りながら、研究の方向性について協議し、研究主題にせまる

ブロック等で行った授業検討の内容をその都度、他のブロックへ配布する。また、ブロック等で積み重ねてきた実践の中から浮かび上がってきた課題を定期的に開かれる研修の全体会において報告する。時間をかけず、効果的に多様な意見を取り上げるために、全体会終了後、課題に対する改善方法についてアンケートをとる。そして、ブロック等で各意見を分析し授業改善の方向性を検討する。学期末に開かれる研修の全体会においては、課題に対する取組について報告し、その成果やさらに浮かび上がった課題について協議することで研究主題にせまっていく。